

Book Review

マイクロエンドサージェリー

Syngcuk Kim, Samuel Kratchman 編著

石井 宏 監訳・訳

田中浩祐・横田 要 訳



Reviewer

田中利典 Toshinori Tanaka

(東京都・東京歯内クリニック院長/

東北大学大学院歯学研究科歯科保存学分野 臨床准教授)

A4 判, 200 頁

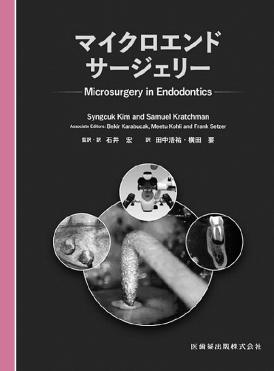
カラー

定価 33,000 円

(本体 30,000 円+税 10%)

医歯薬出版刊

2025 年 9 月発行



近年、マイクロスコープの普及により、歯内治療の臨床環境は飛躍的に向上している。しかしながら、拡大視野下での根管治療や再根管治療はまだしも、歯の保存の最後の砦となる外科的歯内療法については、いまだにハードルが高いと感じる歯科医師が多いであろう。治療の手順は理解していても、手技の一つひとつを直接学ぶ機会は少なく、「どのように行えばよいのか」といった疑問は尽きない。マイクロスコープを導入したものの、今一歩活用しきれないという声も少なくない。本書は、そのような臨床家の問い合わせに真正面から応える実践書である。

本書の著者および訳者は、いずれも米国・ペンシルベニア大学に関わりをもち、Syngcuk Kim 氏をはじめ、彼の臨床哲学を継承しながら第一線で活躍する歯科医師たちである。研究と教育、臨床のすべてにおいて卓越した経験を有し、その知見が本書全体に貫して流れている。本書の特徴として特筆すべきは、単なる「拡大視野下での手技マニュアル」ではなく、各章冒頭の Key Concepts で要点を明示し、その根拠や論理的思考を本文中で明解に展開している点である。各章は臨床の

流れに即して構成されており、麻酔・止血に始まり、フラップデザイン、骨窓洞形成、逆根管窓洞形成、逆根管充填へと続く。そのうえで、イスマスへの配慮、CBCT の評価、上顎洞穿孔やパラタルアプローチなど、臨床現場でふと疑問に思うようなトピックまで網羅されており、他の書籍と一線を画している。さらに、術者の判断過程や症例選択の基準も丁寧に示されており、単に技術を模倣するのではなく、思考の筋道として理解できる構成となっている。

豊富なカラー写真とイラストも本書の大きな魅力である。カラー写真では、マイクロスコープを通してどのように見えるかが視覚的に理解でき、さらに連続する写真によって、その手技を追体験するような感覚で学習できる構成となっている。また、イラストには著者らが強調したい要点が明確に示されており、カラー写真や X 線画像から得られる情報をより深く理解する助けとなっている。

本書の真意は「正しい臨床手技と治療に対する理解の普及」にある。マイクロエンドサージェリーは単に拡大視野下で行う治療ではなく、専用のインスツルメントの進化、術前診査の向

上、バイオセラミック系材料の登場によって、従来の外科的歯内療法とはまったく異なる領域に到達している。しかし、そのことが十分に広まっておらず、外科的歯内療法が軽視されたり、安い拔歯やインプラント治療に流れたりする現状を著者らは憂いでいる。その思いは「インプラント vs マイクロエンドサージェリー」の章で、多数の科学的根拠とともに公平かつ明解に論じられている。

歯科医療および歯科医師は、まず歯科疾患の除去と口腔機能の維持という一次目標に注力すべきであり、著者らはこれまで築き上げてきた知識と経験を通じて、現代の術式をもってすればそれが十分に可能であることを力強く示している。

誰しも自分の歯を抜かれたくはない。その患者の願いに真摯に応えることを考えたとき、本書はまさに道標となる一冊である。マイクロスコープを活用し、保存治療の可能性をさらに拡げようとする臨床家にとって、本書はたしかな指針であり、日々の診療に新たな視点を与えてくれるであろう。